

2024 年度 自己点検評価（数理・データサイエンス・AI 教育に係る科目）

情報教育センター管理運営委員会

1. 成績分布

・修了要件科目

科目名	履修者	秀	優	良	可	不可	未履修	修得者数
データサイエンス入門	48	37.5%	29.2%	10.4%	14.6%	6.3%	2.1%	91.6%
		18	14	5	7	3	1	44
データとA I	35	60.0%	28.6%	5.7%	2.9%	2.9%	0.0%	97.1%
		21	10	2	1	1	0	35

・選択科目

科目名	履修者	秀	優	良	可	不可	未履修	修得者数
情報処理演習Ⅰ	155	14.2%	27.7%	16.8%	29.7%	7.7%	3.9%	88.4%
		22	43	26	46	12	6	137
情報処理演習Ⅱ	90	20.0%	28.9%	24.4%	18.9%	3.3%	4.4%	92.2%
		18	26	22	17	3	4	83
数学基礎	48	10.4%	12.5%	4.2%	27.1%	45.8%	0.0%	54.2%
		5	6	2	13	22	0	26
数学	19	26.3%	10.5%	10.5%	15.8%	31.6%	5.3%	63.2%
		5	2	2	3	6	1	12
統計学基礎	277	45.8%	18.4%	10.5%	23.1%	0.4%	1.8%	97.8%
		127	51	29	64	1	5	271
統計学	217	4.6%	60.8%	22.6%	7.8%	3.2%	0.9%	95.9%
		10	132	49	17	7	2	208

2. 授業アンケート（一部抜粋）

・学習成果

この授業を受けた成果として、最も適切なものを一つ選んでください。

	データサイエンス入門	データとA I
予想していた以上に多くのことを学ぶことができた	59.1%	16.7%
予想していた程度のことを学ぶことができた	31.8%	83.8%
自分が予想していたほど学ぶことはなかった	4.5%	0.0%
全く学ぶことはなかった	4.5%	0.0%

・授業の満足度

この授業を受講して、あなたは満足できましたか。

	データサイエンス入門	データとA I
満足できた	55.0%	33.0%
ある程度満足できた	32.0%	67.0%
あまり満足できなかった	14.0%	0.0%
満足できなかった	0.0%	0.0%

・授業の到達目標

シラバスで示された到達目標は、達成できたと思いますか。

	データサイエンス入門	データとA I
そう思う	40.9%	0.0%
ある程度そう思う	22.7%	66.7%
あまりそう思わない	27.3%	33.1%
思わない	0.0%	0.0%
分からない	9.1%	0.0%

・授業の難易度

あなたにとって、この授業全体の難易度はどの程度でしたか。

	データサイエンス入門	データとA I
簡単だった	27.3%	0.0%
やや簡単だった	9.1%	33.3%
適切だった	54.5%	50.0%
やや難しかった	0.0%	16.7%
難しかった	9.1%	0.0%

3. 自己点検評価

教育プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項	2024年度におけるプログラム修了要件科目「データサイエンス入門」の履修者数は48名、「データとA I」は35名であり、修得率はいずれも90%を上回った。昨年度よりの履修者数が増加しており、本プログラムの認知度が徐々に高まっていると考えられる。 「この授業を受けた成果として、最も適切なものを一つ選んでください」という問いに対し、「データサイエンス入門」では90.9%、「データとA I」では100%の学生が「予想以上に学べた」あるいは「予想通りに学べた」と回答しており、学修成果は良好であったと評価できる。
学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項	「シラバスで示された到達目標は達成できたか」という問いに対し、「データサイエンス入門」の63.6%、「データとA I」の66.7%が「そう思う」または「ある程度そう思う」と回答しており、昨年度より低くなったが、理解度はやや高い。 また、授業の満足度については、「データサイエンス入門」で87%、「データとA I」では100%の学生が「満足できた」あるいは「ある程度満足できた」と回答しており、今後の履修者増加や他の学生への推奨に繋がる好影響が期待される。
全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは開講から2年目を迎え、履修者数・認知度ともに徐々に向上してきた。引き続き、ガイダンスや広報資料の改善を通じて学生への周知を強化し、修了者数の安定的な増加を目指す必要がある。 また、今後は「データサイエンス入門」「データとA I」の位置づけをより明確にし、満足度や難易度に対する学生のフィードバックをもとに、カリキュラムの見直しや授業内容の改善を図る。
教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項	当該プログラムの初回入学生が卒業を迎えるのは2027年度であり、進路や活躍状況、企業からの評価などは、今後の卒業生調査により把握されていく予定である。
産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・	本学では、教育プログラムの質の向上と社会的ニーズへの対応を目的として、定期的に本学の教育活動全般に対する点検・評価を実施し

手法に関する事項	ている。今後は、地域企業や自治体との連携を深め、インターンシップや実務型授業との接続を図るなど、教育プログラムの社会的実装性をさらに高める。
-----------------	---